

# 論文審査の結果の要旨

平成 30 年 7 月 24 日

申請者：李 淼

論文題目：「つける」とその関連語の語彙ネットワークに関する研究

—中国語母語話者の日本語多義語習得支援に役立つ分析を目指して

本学位請求論文では、執筆者が先行研究の内容を丁寧に概観し、自分の研究の基礎として理解できた。論文の中心となるのは、学習者の習得状況の調査と動詞「つける」の多義の構造、および「つける」とその「関連語」（類義語など）の語彙ネットワークの意味構造の分析である。学習者対象の調査が丁寧になされていることは評価に値する。語義の認定と分類には斬新さが欠けているものの、プロトタイプとスキーマによって大きな構造を作り、意味同士をメタファーやメトニミーによって丁寧に関連付けることができたのは、2年間にわたる実証的研究・検証的研究併用の成果である。

そして、この成果は、学習者が困難を感じる多義語の習得を促進する指導法の基礎とすることが可能なものと判断でき、今後の日本語教育学研究の発展に寄与する内容のものであると言える。

以上の点から、本論文を博士号学位請求論文として合格であると判断した。

口頭試問は、平成 30 年 7 月 17 日（火）17 時から、城西国際大学東金キャンパス本部棟 4 階会議室で実施した。最初に論文概要を口頭で発表し、続いて質疑応答が行われた。概要発表は十分に準備されたもので、内容を明快に伝えることができていた。質疑応答では、副査の一人からは論文中で用いられた「道をつける」の意味に関する質問と、「つける」と関連語の語彙ネットワークについて質問があった。主査からは、意味のネットワークの関連語句の中にさらに含めるべきものがあるため、続けて研究を充実させるべしとの指摘を行い、また学習者の多義語の概念の習得のありようを当該日本語語句の中国語対訳語で確認することの危険性についての認識が問われた。

概要の説明と質疑応答に関して大きな問題はなく、こちらも合格レベルであると考えている。

|     |          |       |
|-----|----------|-------|
| 主査： | 人文科学研究科  | 川口 義一 |
| 副査： | 人文科学研究科  | 吉田 朋彦 |
| 副査： | 語学教育センター | 高木 美嘉 |
| 副査： | 大連外国語大学  | 陳 岩   |